

内臓のモビライゼーション臨床報告 8～9月度 (2018)

【小腸】

患者氏名	日付	施術部位	効果	詳細
K.Wさん 82歳 女性	9/4	小腸	左下肢の重だるさ ○	頸部損傷により、以後左下肢の重だるさが常につきまとう。筋力テストでも、左下肢の支持乏しく、歩行時に足の挙上ができずすり足になる。施術後には、軽快感があり、すり足改善していました。
	9/11	小腸	左下肢の重だるさ △	気温低下の冷え症状が全身にみられ、緊張が強く、動作の緩慢さが目立つ。小腸への施術では、筋力テストの改善みられず、腎臓施術を追加で行い、わずかに改善がみられた。
	9/18	小腸	左下肢の重だるさ △	全身の倦怠感、重だるさあり。動作は緩慢さが目立つ。小腸、腎臓施術行うも効果みられず、腹部の緊張は緩和するものの、筋力テストは変化なし。上肢連動しての運動療法を行い、やや改善あり。
	9/27	小腸	左下肢の重だるさ ○	施術前から左下肢の支持力ややあり、施術後にもやや向上がみられた。腹部の緊張が改善し、それに伴い歩行での左足のすり足も改善がみられた。
S.Oさん 90歳 女性	9/4	小腸	腰痛 ○	腰痛あり、立位持続で重だるさ増悪する。右下肢の挙上やや重さがあったが、SLRテストの改善みられた。腹部の緊張も緩和し、腰痛と重だるさの軽減もみられた。
	9/11	小腸	右下肢の重だるさ △	腰痛改善に伴い、左下肢の重だるさは改善し、徐々に右下肢のSLR挙上不足が出現。前回同様、小腸の施術後に右下肢の動作性改善がわずかにみられた。運動療法と併用し、効果顕著にみられた。
	9/18	小腸	右下肢の重だるさ ○	右下肢の挙上はやや重さがみられたが、小腸施術後に改善。スムーズに最終角度まで挙上できた。腰の重だるさには影響なかったものの、立位姿勢の改善がみられ、体前傾が伸展位に。
T.Kさん 91歳 男性	9/4	小腸	左下肢の重だるさ △	腹部の強い緊張あり。左下肢の挙上テストでは、重だるさがあり右下肢より動作性乏しい。施術後は、腹部緊張緩和したものの、下肢の挙上は変化みられず。ご本人は、軽快感があると仰っていました
	9/11	小腸	左下肢の重だるさ △	腹部の緊張は、小腸施術後に緩和がみられた。下肢の挙上テストは、わずかに改善がみられたが、本人実感はなし。立位への影響もほとんどみられず。
K.Tさん 86歳 男性	8/14	小腸	全身のこわばり ○	全身の緊張状態が続いていて、動作の全てが緩慢な状態です。重だるさが強く、起居動作も辛い様子で、介助が必要です。小腸施術により、腹部の緊張緩和し、両大腿部の緊張も低減がみられた。
	8/21	小腸	腰痛 ○	全身の緊張は強い状態です。起居動作での腰背部痛があるが、小腸施術により腹部緊張が緩和したあとは、痛みが少し残っていたものの明らかな軽減がみられました。

○：一定の効果、実感あり

2→1：施術前後の痛みの変化（本人にとっての最大痛値を5に設定）

△：効果の本人実感があまりない

SLRテスト：仰向けで、下肢を伸展位で上方へ挙上する（挙上テストと同義）

その他 臨床報告

「効果がみられなかった症例」

全ての施術事例において、腹部の過緊張の低減がみられました。しかし、過緊張の低減が患者様の症状緩和や効果実感に直結しない事例もありました。同様に、施術前後の下肢筋力テストにおいても効果が出ない、その他動作の改善がみられないこともありました。

効果がみられなかった要因として、小腸への施術技術の未熟さがまず考えられますが、腹部の緊張緩和がみられたことで、一定の効果があつたものとみられます。その上で効果が出なかったということは、少なくとも該当症例の原因となるものが、小腸ではない。もしくは小腸以外にも原因があつたと考えられます。

小腸施術で効果がみられなかったいくつかの症例に対し、前月実施した腎臓モビライゼーション施術を実施したところ、明らかな効果がみられたものもありました。

他の治療法と同様、内臓へのモビライゼーション治療においても、適切な治療を実施するためには、原因を見極める観察眼、考察力が必須であると考えます。

考察

小腸のモビライゼーション治療では、大まかに2つの治療法の選択肢があります。腹部の前後に手のひらを当てるサンドウィッチ法、腹部側のみに手のひらを当て小腸の動きを感じ取り追従、増幅する方法。前者の手法は、当てる位置も大まかで非常に簡単な技術です。後者の手法は、微細な動きを感じ取る難しさと、効果を出すためにはある程度の時間を要するため、やや扱いが困難です。どちらも実施してみましたが、後者の手法の方が施術効果は大きかったと感じました。

腹部の過緊張を取り除くことは、患者の全身の緊張緩和を促す効果もあり、直接的に腸の活動の改善にもなるため、非常に有用な治療法と考えます。ただし、非常に微妙な動きや手圧で行う施術のため、患者自身でも、何をされているかよく分からない。といった状態になります。施術者との間にある程度の信頼関係がある患者でないと、もし効果が出なかった場合、不信感に繋がるリスクも考えられます。同様の理由で、外崎PTも初めての患者には行わない。と仰っていました。

この技術を全体へ伝える場合のネックとして、効果を示すためには一定の時間を要するところと考えます。一人一人に効果実感を得てもらうには、技術講習内の時間では困難です。ただ、様々な身体状態の患者様に対応するための治療の選択肢の一つとして、とても有効な手段であるのは間違いのないため、各課題を解決し全体への技術伝達に取り組んでいきます。